

# エゾシカ捕獲試験の結果報告

## － 3年間を通して－

＜結果＞

年度	試験地	誘引頭数	捕獲実施回数	捕獲頭数	捕獲割合 (%)
22	ニニウ赤岩	16	5	7	43.8
23	ニニウ赤岩	15	8	14	93.3
	左1号	2	1	0	0.0
	マカウシ	0	0	0	0.0
24	ニニウ赤岩	11	6	10	90.9
	西占冠	2	3	1	50.0
	一休沢	3	2	1	33.3

(捕獲割合＝捕獲頭数／誘引頭数×100)

平成22年度から24年度までの3年間、餌付けを併用し誘引されたシカの頭頸部を狙撃し全滅させる、いわゆるシャープシューティング的手法による捕獲試験を行ないました。場所の選定や細かい手法など試行錯誤しながら行なってきたこれまでの結果について報告します。

22年度から3年間継続して実施してきた「ニニウ赤岩」試験地では、高い割合で誘引・捕獲に成功しました。特に23年度、24年度については誘引頭数に対する捕獲頭数の割合が9割以上という結果となりました。

上記の試験地と同様に捕獲のできる場所を増やすため、23年度からは様々な場所で試験を実施しましたが、23年度は餌付けに苦戦、24年度は全ての試験地で餌付けには成功しましたが、「ニニウ赤岩」試験地がメスの群れの誘引であったのに対して、「西占冠」「一休沢」試験地ではオスの群れが誘引され、同様の捕獲ができる条件とはなりません。

### ＜今後の課題＞

この手法の第一の目的は警戒心の高いシカを生み出さずに効率よくシカを捕獲し、個体数を調整するというところにあります。しかし、餌付けの失敗経験などから考えて占冠村ではこの手法が村のどこでも実施できるわけではないことがわかってきました。占冠村で効率よくシカを捕獲する手法については時期、場所ともにシカの生態解明に力を注ぎながら考え直す必要があるかもしれません。

3年間実施したこの手法に限って言えば、狩猟と比較すると餌代というコストや継続してエサを撒く労力がかかる半面、捕獲個体の栄養状態・狙撃部位など食肉としての価値が高い肉を手に入れることができました。少なくともこの試験で選定した「ニニウ赤岩」試験地では、今後も継続的にシカの捕獲が可能だと考えられます。費用対効果なども考慮に入れ、どこに主眼を置いてシカの捕獲を進めていくかが今後の大きな課題になるでしょう。

(林業振興室 荒木奈津子)

誘引されたシカ (左：ニニウ赤岩 右：西占冠)

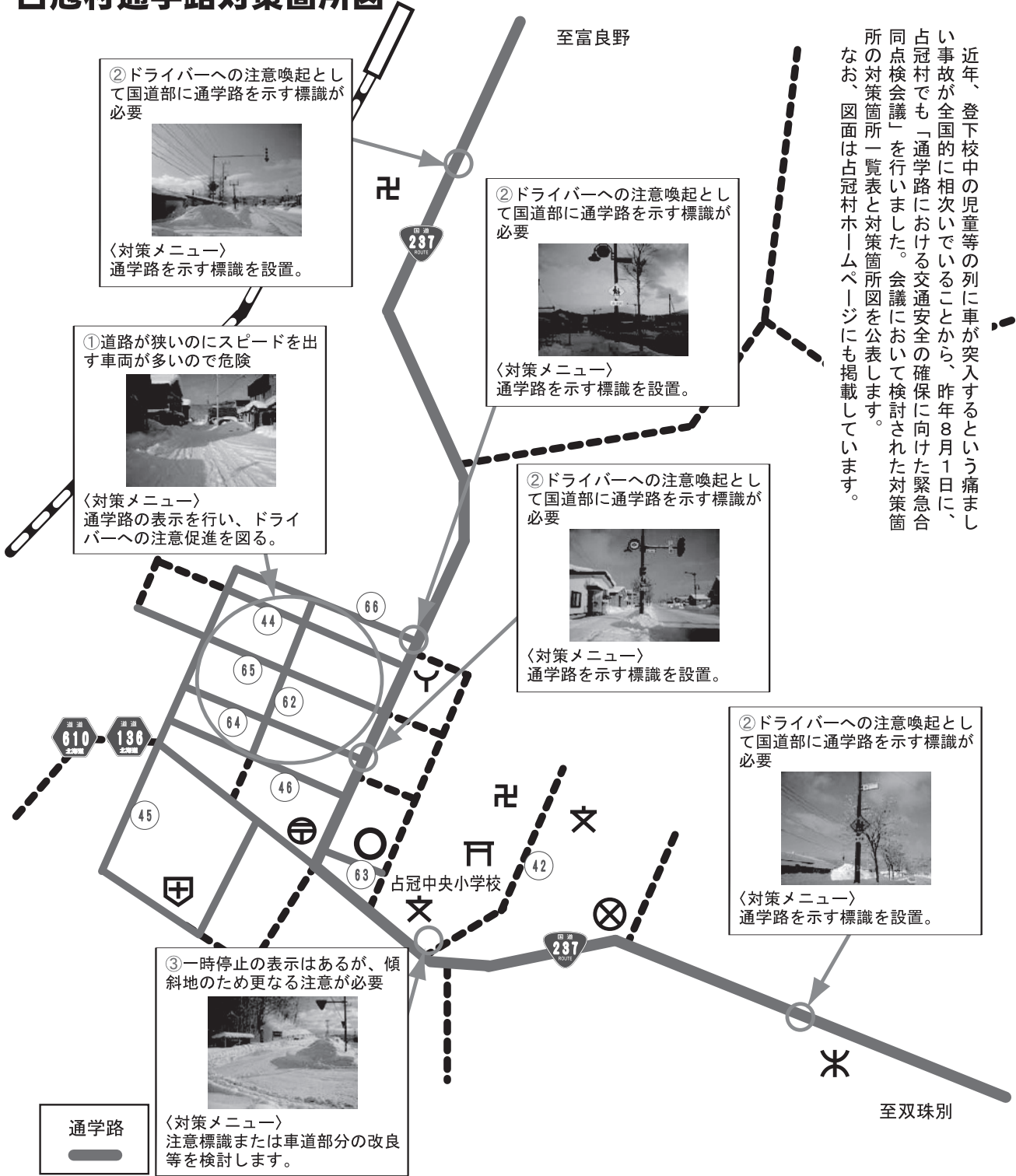


狙撃用の小屋  
(下：高床式 上：地面設置式)

狙撃の様子



# 占冠村通学路対策箇所図



近年、登下校中の児童等の列に車が突入するという痛ましい事故が全国的に相次いでいることから、昨年8月1日に、占冠村でも「通学路における交通安全の確保に向けた緊急合同点検会議」を行いました。会議において検討された対策箇所の対策箇所一覧表と対策箇所図を公表します。なお、図面は占冠村ホームページにも掲載しています。

占冠村通学路の対策箇所一覧表

【占冠中央小学校】

路線名	箇所名・住所	通学路の状況・危険の内容	対策内容	事業主体
① 村道(46)北1線、(64)北2線、(65)北4線、(44)北6線、(66)北7線、(63)2号線、(45)中央基線、(62)東2号線	占冠村字中央(千歳地区)	道路幅員が狭いのに通行車両が多く、又、スピードも速い	平成25年度中に「通学路」表示板の設置をします。	占冠村
② 国道237号	占冠村字中央(宮下、千歳、美園地区)	ドライバーへの注意喚起として国道部に通学路を示す標識が必要	通学路を示す標識を設置。	北海道開発局
③ 国道237号と村道(42)東1線の接続部分	占冠村字中央(宮下地区)	中学校からの下り部分で、一時停止標識はあるが、傾斜地のため更なる対策が必要	注意標識又は車道部分の改良等の対策を検討します。	占冠村

【対策検討メンバー】 教育委員会、小学校、PTA会長、保護者代表、行政区長、富良野道路事務所、富良野警察署、占冠村産業建設課